

令和6年度 第3回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年10月24日（木） 14時00分から16時15分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、高柳 理子
中川 智博、紙上 理恵、森 聖子、
- 4 欠席委員 清水 裕人、高田あゆみ
- 5 オブザーバー 大野木龍太郎（静岡大学）、井下 俊輔（青少年の家）、
鈴木 皓介（高台協働センター）
- 6 学 校 土屋 憲司（校長）、小嶋 澄華（教頭）、藤井 智之（生徒指導主任）
中村 朝実（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 中村 朝実
- 9 議長の選出
- 10 司会から、議長の選出について意見を求めたところ、川嶋委員より岩井会長を推薦する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。
- 11 協議事項
 - （1）「やさしさ」を形にするために
 - ①城北小学校いじめ防止基本方針について
 - ②取組状況と自己評価
 - ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況
 - ・職員による自己評価（中間期）
 - （2）学校が抱える課題と改善策
 - （3）「城北っ子 5つのめあて」について
- 12 会議記録

司会から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

 - （1）「やさしさ」を形にするために
 - ①城北小学校いじめ防止基本方針について
 - ②取組状況と自己評価
 - ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況
 - ・職員による自己評価（中間期）
 - （2）学校が抱える課題と改善策

藤井生徒指導主任より説明があり、（1）（2）について委員からは以下の発言があった。

 - ・シャボテンアンケートは何？（川嶋委員）

→市で統一のいじめの20項目のアンケート

 - ・全学年統一なのか？（森委員）

→低学年バージョン、高学年バージョンがある。

(3)「城北っ子 5つのめあて」について

「城北っ子5つのめあて」について校長より説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・めあてを考える中で、先生方の「待つ」姿勢、子供たちの「何かを作ろうとする力」を感じた。地域の方達とのつながりがあるから、地域にも広げていこうとなれる。地域に支えられて意識できている。これこそが教育なんだと感じた。(森委員)
 - ・子供がみんなで話し合い一生懸命考えている姿はすごく良い。子供のやってみたいに対して、大人がサポートして助けてあげることで、守られている感もあり、達成感もあり良い。(紙上委員)
 - ・先生から子供たちに伝えたとき「大人もやってほしい」と意見が出た。横断歩道で手を上げるのは子供だけ、大人は上げない。大人になったらやらなくていいんだと教えているようなもの。子供たちが一生懸命考えたときに、大人がカバーして、大人もできているかな？と考えると良い。子供ががっかりする大人にならないように、自分たちに当てはめながら大人が見本になれると良い。(川嶋委員)
 - ・地域の諸団体にも、可能な限り実践できないか呼びかけるのも大事。子供たちが提案していることをどう受け取るか。地域の受け皿をどうしていくか。自治センター、青少年の家、社協等の受け皿を用意していけたら良い。(高柳委員)
 - ・高台協働センターとしては学区が複数校かぶっているので、一校だけにというのは…。取り組みはすごく良い。大人に広げたい。(鈴木さん)
 - ・ポスターなど貼って紹介できる。(井下さん)
 - ・大人が子供に教える、守れだったが、子供も大人も一緒にやろうね！に替えていかなければいけない。(岩井会長)
 - ・DVDで紹介するのも分かりやすいかも。子供が動画で何でこうなったかの思いを話して発信していけたら良い。(紙上委員)
 - ・字を読むだけだと伝わらない。授業の度に伝えたり、授業とつなげていけると良い。(川嶋委員)
 - ・道徳の授業でも結び付けていけると良い。(紙上委員)
- 道徳の授業が変わってきている。今は教材を読んで、こう考えて〇〇だと思えば意見を出し合う、それを聞いてどう思ったか出し合う。5つのめあての④助けようとリンクして、目当てとつなげて話すことはできる。(校長)
- ・ポスターにどうしてこう考えたのか、子供の考えを吹き出しのように加えると分かりやすいかもしれない。(森委員)
 - ・自治会で子供たちに来てもらって、話すこともできる。(中川勝夫委員)
 - ・大人に伝えるならどういう方法があるのか、いいのか、子供たちにも聞いてみてほしい。(森委員)
 - ・子供たちが直接伝えに行くのが一番良い。(紙上委員)
 - ・プロセスが大事。受け身で終わっていたのに、子供たちがどうやって自分事にしていくか。「やさしさ」については人に対するものが多いが、自分自身について困っている事を考える子になろう。イライラするのは自分のせいなのか？と問いかけ、何が原因なのか、自分と向き合い、どうしてなんだろうと考える。なぜ自分が困っているか分からないと意味が無い。助けるって、どういう時に助けるのか？全ての壁を取っ払うのが助けるではない。今の子供たちに本当に必要な「壁」は何なのか、しっかり向き合って。向き合うには先生や仲間が必要。できないのは自分がだめなんだと思わない子にしていくために、子供たちには考える時間が大事。(大野木さん)

- ・子供たちが普及する間に、大人に対して、地域に対して感謝して、社会を知るきっかけになると良い。(岩井委員)
 - ・自分たちで説明できるかが難しい。(川嶋委員)
 - ・言葉を見て考える過程が大事。これだったらできるかなと思ったり、少しずつ心に留められたらやさしさになっていく。(森委員)
 - ・これまでの流れや変更点なども伝えていくと良い。これに完成はない。ずっとやっていかないといけない。(川嶋委員)
 - ・地域に出して大人の意見も聞いて、また考えていけば良い。(高柳委員)
 - ・地域に出しても「城北小良いことやっているね！」だけで終わったら困る。もっとつなげて広めていかなければ。(岩井会長)
- 提案して「ここ直した方が良い」と上から目線で言われたら、やっぱり大人は…となってしまう。
まずは受け取ってほしい。(校長)
- ・大人に質問してもらうのも良い。(高柳委員)
- 子供から大人に質問するのも良い。問いかけてみるのが良い(校長)
- ・イベントを一緒にやって、上手に助けてあげられたね！と声かけで伝えていけると良い。(中川勝夫委員)
 - ・イベント的にやるなら、1人1人が主役になれる場面設定をしてあげるといい。例えば、トークフォークダンス。(大野木さん)

その他報告事項等

- (1) 夏休み居場所作りアンケートについて
- (2) 学校支援 CD から
 - ① 7～9月の城北小サポーター活動実施報告
 - ② 「コミスク便り(9月号)」発行について

その他連絡

次回の運営協議会は令和7年2月6日(木)14時30分～16時00分、城北小学校会議室で行う。